

令和6年度 第1回

八王子市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会

次第

令和6年(2024年)4月26日(金)

午後2時30分～4時00分

八王子市役所 議会棟4階 第3・第4委員会室

1.開 会

2.委員の紹介

3.議 題

- (1)会長・副会長の選任
- (2)第4期八王子市地域福祉計画の概要について
- (3)令和6年度(2024年度)の開催スケジュール

4.報 告

- ・はちまるサポート長房の一時移転について

5.その他

6.閉 会

【配付資料】

- ・第4期 八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会委員名簿 (R6.4.1時点)
- ・【資料1】第4期八王子市地域福祉計画の考え方と特徴について
- ・【資料2】令和6年度(2024年度)地域福祉専門分科会開催スケジュール
- ・【資料3】はちまるサポート長房の一時移転について

第4期 八王子市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会

委員名簿

(任期:令和6年(2024年)4月~令和9年(2027年)3月)
令和6年(2024年)4月1日現在

氏名	ふりがな	所属
石井 修一	いしい しゅういち	八王子市町会自治会連合会
上村 晃一	かみむら こういち	市民委員(市内在住で15歳以上)
黒岩 亮子	くろいわ りょうこ	学校法人 日本女子大学
齋藤 健	さいとう たけし	特定非営利活動法人 八王子市民活動協議会
島崎 誠	しまざき まこと	八王子市民生委員児童委員協議会
下島 宏文	しもじま ひろふみ	市民委員(市内で企業を経営)
豊田 聡	とよだ さとる	社会福祉法人 八王子市社会福祉協議会
丸山 颯姫	まるやま さつき	市民委員(市内の大学等に在学中)
室田 信一	むろた しんいち	公立大学法人 東京都立大学
山下 晋矢	やました しんや	一般社団法人 八王子市医師会

<市職員>

氏名	ふりがな	所属
立花 等	たちばな ひとし	福祉部長
柏田 恆希	かしわだ こうき	福祉政策課長
吉本 知宏	よしもと ともひろ	高齢者いきいき課長
櫻田 ひかり	さくらだ ひかり	障害者福祉課長
小俣 英一	おまた ひでかず	生活自立支援課長
中山 あずさ	なかやま あずさ	健康医療政策課長
白石 利和	しらいし としかず	保健総務課長
原 清	はら きよし	子どものしあわせ課長

第4期八王子市地域福祉計画の考え方と特徴

～ つながる地域 で つなげる未来 ～



※令和2年6月19日「靈氣満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」が東京都初の日本遺産に認定

新たな「八王子市地域福祉計画」のキーワード (第4期：令和6年度～11年度)



第4期地域福祉計画

【基本目標】

だれもが、地域の中で、共に支えあい、安心して、
元気で生き活きと暮らすことができるまちづくり

【めざす姿】

“市民力・地域力” 地域におけるつながりあい

※ 人とひと、人と地域が世代や分野を超えつながる」という
地域共生社会の理念を「めざす姿」に反映するため、
「つながりあい」という言葉を含めました

新たな「八王子市地域福祉計画」のキーワード
(第4期：令和6年度～11年度)

“つながる”

人とひと、人と地域、人と情報、専門職と専門職、多様な“つながる(り)”を
新たに生み出す、様々な施策を示す。

“つながる”を視点とした施策展開

テーマ

地域のつながり

人材のつながり

サービスの
つながり

地域福祉を推進するしくみの充実
一人ひとりの幸せを地域全体で
支え合うさりげない“つながり”
・多様な“つながり”

人材の充実・育成・活用
地域で安心して暮らし続けることが
できる多様な人材の重層的な
“つながり”

福祉サービスの充実
支援が必要になっても自立した
日常を継続できるサービスの
“つながり”

施策

誰もが地域の力になれる
しくみづくり

福祉や健康づくりが
日常になる環境づくり

福祉関係者などとの連携強化と
新たな担い手づくり

様々な専門職との連携と
包括的な支援体制の強化

一人ひとりに知りたい
情報が届くしくみの充実

隙間のないサービス提供と
効果的なサービス運用体制
の充実

特徴① ライフスタイルに溶け込む福祉への “つなぎ手”

一人ひとりが社会とつながることで、隣人の孤独・孤立の解消や異変の察知など、福祉的な効果も期待できる。日常生活の中で地域や人とゆるやかに“つながる”地域住民を、新たに「つなぎ手」と呼称し、誰でもできる地域福祉を充実する。

つなぎ手のイメージ

福祉と“つながる”

(行動する)

“自分のライフスタイル”で
“つなぐ”行動をしてみる!

情報と“つながる”

(知る・学ぶ)

“地域の課題ってなに?”
“自分にできることは何かな?”
“どこに相談すればいい?”

人や地域と“つながる”

(周りに関心を持つ)

“ご近所で挨拶しよう”
“地域の集まりに参加してみよう”
“つながる機会や範囲を広げてみよう”



気になることを“つなぐ”



福祉の情報を得る



気にかける

“つながる”意識をもち、知る・学ぶ機会を通じて福祉に“つなぐ”「つなぎ手」の充実

国内外における「孤独・孤立」「人と人とのつながり」に関する研究

孤独・社会的孤立／人と人とのつながりの希薄化が与える影響

① 健康上の様々なリスク

- ・ 社会的孤立は喫煙・肥満・運動不足よりも健康上のリスクが高い
(Holt-Lunstad J(2010)Social Relationships and Mortality Risk A Meta-analytic Review)
- ・ 社会的なつながりが弱いと1日15本の喫煙と同程度の健康への悪影響がある
(Jo Cox Commission on Loneliness 「Combating loneliness one conversation at a time : A call to action」)
- ・ 他者との交流頻度が週1回未満だと認知症の発症リスクなどの健康リスクが上昇
(斉藤雅茂・近藤克則・尾島俊之ほか(2015)日本公衆衛生雑誌)

② 自殺念慮、自傷行為への大きな因子

- ・ 孤独・孤立や社会的支援の欠如が自殺念慮や自傷行為のリスクにつながるという調査結果
(Our Epidemic of Loneliness and Isolation (2023) Washington (DC): US Department of Health and Human Services)

③ 日常生活における様々な経済的・社会的活動の意欲減退

- ・ 3～4割程度の若者が、孤独を感じているときは、孤独を感じていないときに比べて、「外出」「学業・仕事」「家事・育児」に対する意欲を減退させるという調査結果
(株)野村総合研究所「新型コロナウイルス流行に係る生活の変化と孤独に関する調査」(2022)
- ・ 職場における支援的で包摂的な人間関係は、仕事に関する満足感、エンゲージメント、能力の発揮に関連。キャリアアップ、収入等経済的安定性にも影響。(労働生産性の低下)
(Our Epidemic of Loneliness and Isolation (2023) Washington (DC): US Department of Health and Human Services)

人と人とのつながりが地域社会にもたらす効果

■ ポピュレーションヘルス

- ・ 感染症への予防行動など

■ コミュニティ・セーフティ

- ・ 住民間の信頼感、暴力は許されないとする抑制効果など

■ 経済的豊かさ

- ・ 雇用、経済的な機会及び情報の共有、失業からの回復など

■ 災害への備えとレジリエンス

- ・ 訓練を受けた専門家より近くにいる隣人が最初に対応、知識と資源を隣人と共有など

■ 市民参画

- ・ 「公共の関心ごとに対処するための行動」レベルの向上、政策やプログラムへの住民意思の反映による市民参画の継続と拡大



“社会的孤立と孤独は深刻な健康被害をもたらす。その健康リスクは、日常的な喫煙、過度の飲酒、肥満に匹敵する。”

出典:Infographic
(WHO Commission on Social Connection)

特長② 重層的支援体制整備事業の深化・推進

方針

「重層的支援体制整備事業」深化・推進の視点

地域生活課題の深刻化予防に向けた**早期把握と支援へのつなぎ**

①

早期発見・早期支援へのつなぎを目的とした地域への「アウトリーチ」強化

潜在化している問題を発見（掘り起こし）し、適切な評価のもと必要な支援や情報につなげる

②

相談機関の認知度を向上（普及啓発の充実・問題に備える）

いざという時に備え、予め相談窓口やサービスを「知る」「学ぶ」機会を充実する

③

様々な支援機関や専門職との“つながり”強化（情報共有、相互理解、チーム対応）

分野の垣根を越えた多機関の協働体制の強化（複雑化した問題への対応力向上）

④

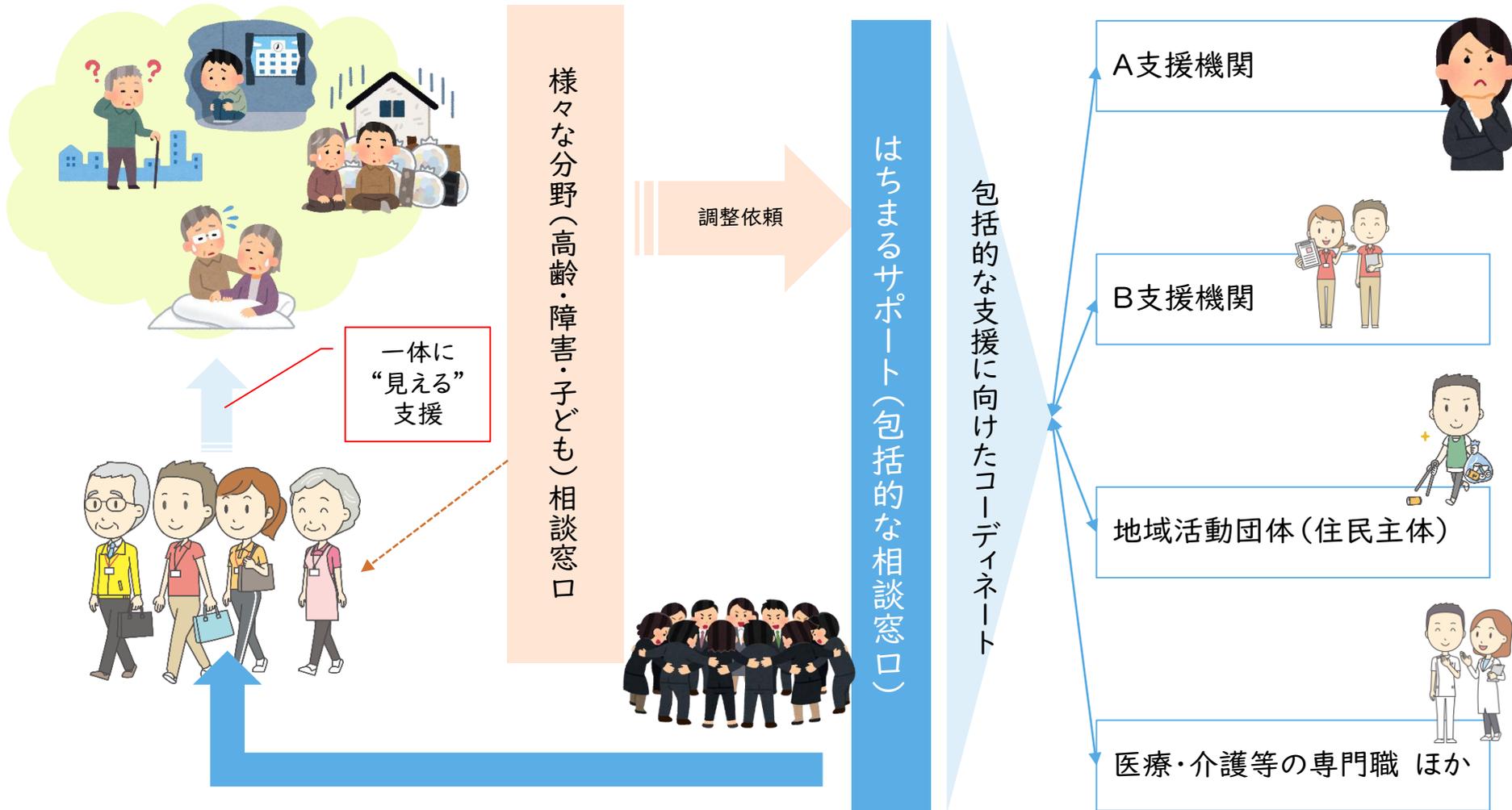
地域住民や企業等による見守りや居場所づくり、地域活動の充実

地域住民の居場所や交流機会を増やし、課題発見の機会を充実する など

包括的な支援体制の構築を進める上での前提②

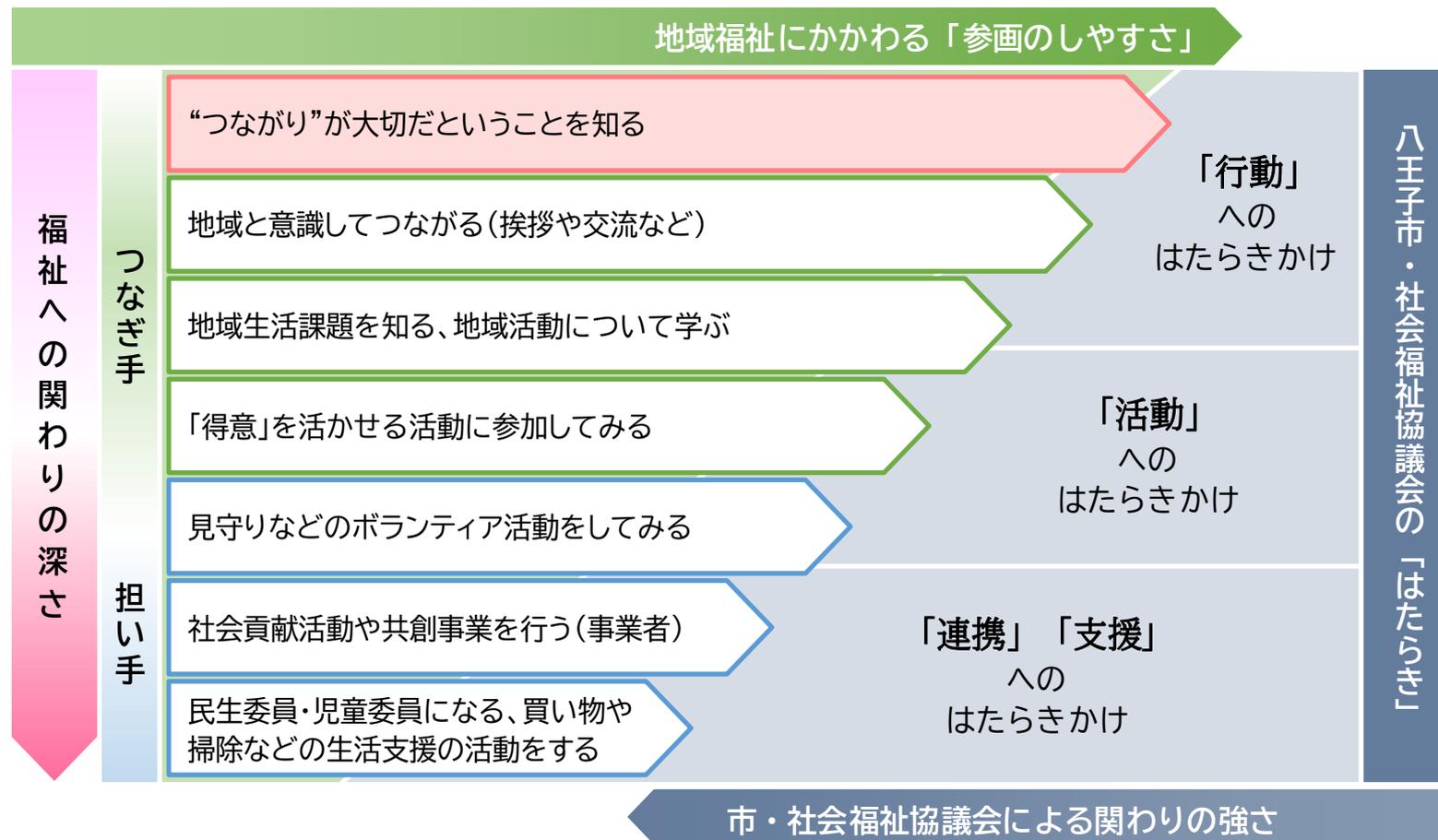
市民は親しみのある身近な相談窓口相談…

裏で包括的な支援チームを構成・支援の合意形成



特長③ 多様な主体を巻き込む「はたらきかけ」

「自分らしく」日常で福祉を担う



率先して地域福祉を推進していく主体として、本市と社会福祉協議会が「車の両輪」となり、「期待される行動」に対して行う様々な「はたらきかけ」を行い、行動に“つなげる”。

特長④ 必要な方に福祉の情報を“つなげる”

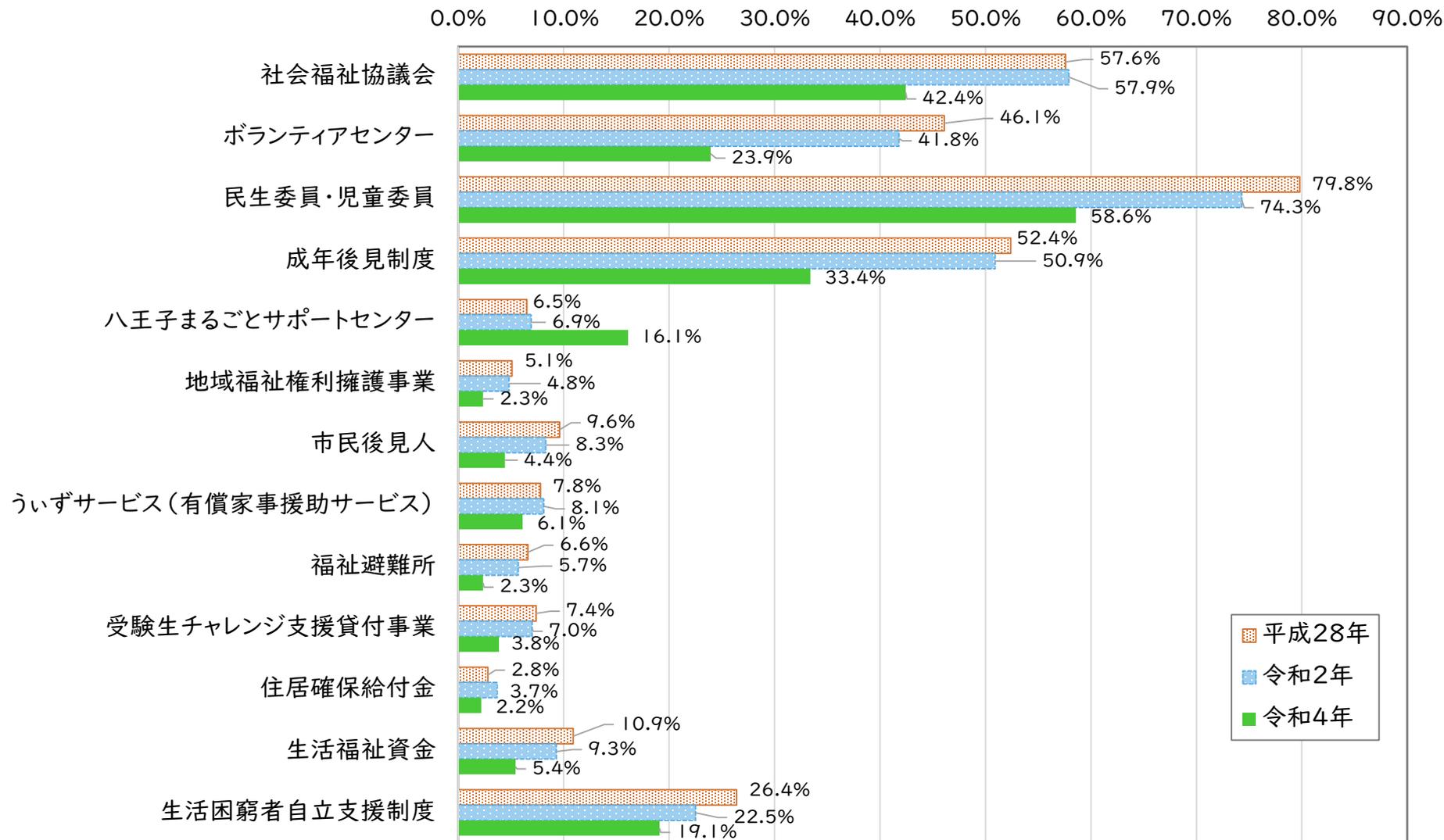
必要な人に必要な地域福祉や福祉サービスの情報を計画的かつ効果的に届けられるよう、「施策」ごとに対象や方法、目標を設定した「周知目標」を掲載する。

<施策1-1「誰もが地域の力になれるしくみづくり」を推進するための周知目標>

周知が必要な項目	主な周知の対象	周知方法	周知目標	
			現状値	目標値 【令和11年度】 (2029年度)
「つながる」ことの効果や重要性	地域住民	① 広報 ② ホームページ ③ SNS ④ 啓発リーフレット ⑤ シンポジウム	新規	新規取得値の向上
八王子市社会福祉協議会		① 広報 ② ホームページ ③ SNS ④ 啓発リーフレット	42.7%	60.0%
ボランティアセンター			24.1%	50.0%
CSW			新規	新規取得値の向上
生活支援コーディネーター		① 広報 ② ホームページ ③ 啓発リーフレット	新規	新規取得値の向上
民生委員・児童委員		① 広報 ② ホームページ	58.6%	70.0%

※ 意識調査等で、福祉サービスや考え方の認知度の値を定期的に把握する。

福祉に関する窓口やサービスの認知度（現状認識）



※ 令和4年度新たな地域福祉計画策定に伴う意識調査結果より

計画のアウトカム（地域福祉専門分科会で評価）

成果指標	テーマ	施策	指標		
			項目	現状値	目標値
総合的な暮らしやすさ（暮らしの満足度）	1 地域のつながり	1-1 誰もが地域の力になれるしくみづくり	だれもが活躍できる環境が整っているまちと感じている市民の割合	30.0%	50.0%
			地域コミュニティ活動に参加している市民の割合	22.4%	40.0%
			身近な場所に困りごとを相談できる人がいる市民の割合	67.2%	85.0%
			孤独・孤立を感じている人の割合	40.3%	↓
		1-2 福祉や健康づくりが日常になる環境づくり	地域の人と交流したり、地域の活動に参加したりすることで、充実感や生きがいを感じる市民の割合	31.7%	40.0%
			居場所があると感じている市民の割合	59.8%	75.0%
			誰もが学び、学んだことを活かせる環境が整っているまちと感じている市民の割合	40.0%	60.0%
			地域に人とひととのつながりがあるまちと感じている市民の割合	28.4%	60.0%
	2 人材のつながり	2-1 福祉関係者などとの連携強化と新たな担い手づくり	民生委員・児童委員の充足率	94.1%	100.0%
			地域福祉計画の認知度	59.2%	70.0%
			大学等や学生がまちづくりに関わっていると実感している市民の割合	24.5%	50.0%
			看護専門学校卒業生の市内就職率（実績）	78.8%	70.0%↑
		2-2 様々な専門職との連携と包括的な支援体制の強化	多機関と連携できる体制があると感じている福祉関係機関の割合	70.5%	90.0%
			福祉関係機関の「多機関協働事業」の活用度	28.6%	50.0%
			福祉関係機関の「はちまるサポートが行う支援内容」の認知度	85.3%	90.0%
			CSWの役割の認知度	82.7%	90.0%
	3 サービスのつながり	3-1 一人ひとりに知りたい情報が届くしくみの充実	福祉サービスの認知度（平均）	18.3%	30.0%
			相談窓口（はちまるサポート、高齢、障害、子ども、生活自立支援ほか）の認知度	11.4% ほか	50.0% ほか
			福祉サービスや制度のしくみのわかりやすさ	9.3%	30.0%
			SNS（Facebook、LINE等）を通じて福祉の情報を入手している人の割合	17.7%	30.0%
3-2 隙間のないサービス提供と効果的なサービス運用体制の充実		悩みや不安、困りごとを誰に相談すればいいかわからない人の割合	13.3%	↓	
		はちまるサポートの認知度	11.4%	50.0%	
		多機関と連携できる体制があると感じている福祉関係機関の割合	70.5%	90.0%	
		公民共創の実施件数（福祉分野）	-	6件	
現状値	目標値				
59.9%	65.0%				

本日の論点

“福祉”が八王子市民の間で、
当たり前の「ライフスタイル」になる!?

意識・無意識に関わらず…人とひと、人と地域に自然と

“つながり”が生まれる行動変容を
起こすために、どんな仕掛けをすればいい？

課題の幅が広いので、今回は“つなぎ手”を増やしていくために…

- ① 誰かと自然に“つながる”仕掛け(意識・無意識にかかわらず)
- ② 社会参加・交流など、社会や人とつながる「機会」や「場」を使った仕掛け
- ③ 困っている人を発見して福祉の支援機関に“つなげる”仕掛け など

定着・日常化しやすい、誰でも気軽にできる「孤立を防ぐためのつなぎ」を意識する

はちまるサポート長房の一時移転について

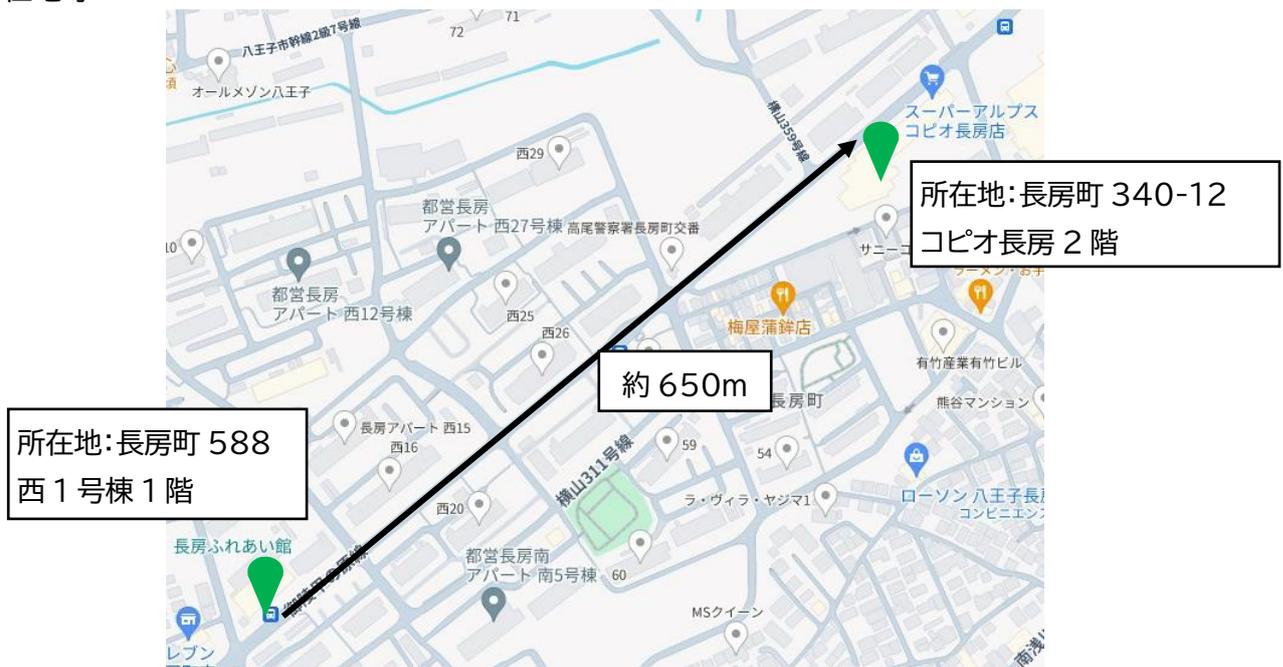
1. 概要

長房ふれあい館の休館に伴い、同施設内に設置しているはちまるサポート長房を高齢者あんしん相談センター長房(以下、包括長房)内に一時的に移転する。

2. 移転の期間

令和6年(2024年)7月1日から令和7年(2025年)3月31日まで

3. 所在地等



4. 移転先について

- ・ はちまるサポートは、分野横断的な支援体制の構築を目指して高齢者あんしん相談センター等の相談機関との併設を進めてきている。移転期間中は包括長房と併設することとなり、分野横断的な連携を図ることができる。
- ・ 包括長房が設置されているコピオ長房は、スーパーアルプスなどの複数の商業施設による複合施設であり、来店した地域住民に異変などを感じた際にスムーズに相談につながる事が期待できる。



<高齢者あんしん相談センター長房 相談室>

5. その他

移転期間中の連絡先は下表のとおり。

	移転前	移転後
電話番号	042-629-9511(変更なし)	
FAX 番号	042-629-9512	042-649-8478